



目次

日本文学科へのいざない	1
日本文学科の構成	2
日本文学科 3つのポリシー	4
日本文学専攻の概要	6
日本語学専攻の概要	8
伝承文学専攻の概要	10
書道領域関連講座の概要	12
図書館学関連講座の概要	13
国語教育学領域関連講座の概要	14
教育関連の副専攻プログラム	15
専門教育科目構成	16
卒業後の進路	17



日本文学学科へのいざない

日本文学科代表 大石 泰夫

國學院大學の日本文学科に興味・関心を持ってくださいますありがとうございます。

本学科は、「日本文学」「日本語学」「伝承文学」の3つの専攻を柱として、日本の文学、言語、風俗習慣、儀礼、書道などを幅広く学んで、日本文化の特質や日本人の精神性を理解することを目的とした学科です。教員構成は、日本文学専攻11名、日本語学専攻5名、伝承文学専攻5名、書道を専門とする2名、図書館学を専門とする2名、教育学を専門とする3名の計29名によって、多彩な内容の授業が展開されています。

大学の授業には、教員が学問の知識・方法を伝えることを主とする講義科目と、その内容を踏まえて学生がみずから調査・研究して発表することを主とする演習科目とがあります。1年次には、3つの専攻それぞれの分野の全体像を講義科目で学びます。そのうえで、2年次に、希望する専攻を選択し、専門的な講義科目と並行して演習科目での学修を行います。3、4年次には、「卒業論文」の作成に向けて、より本格的な研究を行います。ひとつの課題を深く追究することによって問題を発見し、それを明らかにするために論理的にこれを整理して、説得力を持って解答を導き出す「卒業論文」を必須としています。

大学で学ぶ意義は、知識を身につけることだけではなく、学問をする人と出会い、学問の方法を身につけることにあります。

知識は独学でも身につけることができますが、学問の方法を身につけるのは独学では難しく、大学という場において、問題を発見する方法や解決するための調査と分析の方法、他の人を説得する伝達方法を、好きな分野での訓練を通して身につけるのが効果的でしょう。本学科には、そうした学問の方法を身につける環境が整っているという大きな特色があります。数多い教員と講義・演習科目に加え、図書館・資料室が充実し、教員と大学院生・学部生が一緒になって課外で取り組んでいる多くの研究会が組織されています。このような環境のもとで、國學院大學ならではの学問が継承されているのです。

本学科の学生は、卒業後、研究者を目指して大学院に進学したり、中学・高校の国語教員になったり、日本語教師になったり、図書館の司書になったり、博物館の学芸員になったり、公務員になったり、一般企業に勤めたりして、さまざまな道に進んで行きますが、学問の方法を身につけていると、社会のさまざまな場面において応用することができ、物事の本質を把握する姿勢を保ち続けられるものと思われま。

このガイドブックの中には、受験生・高校生のあなたにとって、未知の学問の世界の一端が紹介されていることと思います。ページをめくるたびに「もっと詳しく学びたい！」と國學院大學の日本文学学科への興味・関心が増すことを願っています。

——いざたまへ。國學院大學へ。



日本文学学科の構成 (令和4年度)

國學院大學は、明治15年(1882)設立の皇典講究所が母体です。日本文学学科は、その学問の伝統を踏まえつつ、古代から現代に至る広範囲の文学・言語・風俗習慣・儀礼などの研究を通して、日本文化を総合的・体系的に理解することを目的としています。それとともに、今に生きる私達にとっての創造への指針たることをも目指しています。

この目的と目標の下に日本文学学科は、日本文学専攻・日本語学専攻・伝承文学専攻の3専攻によって構成されています。

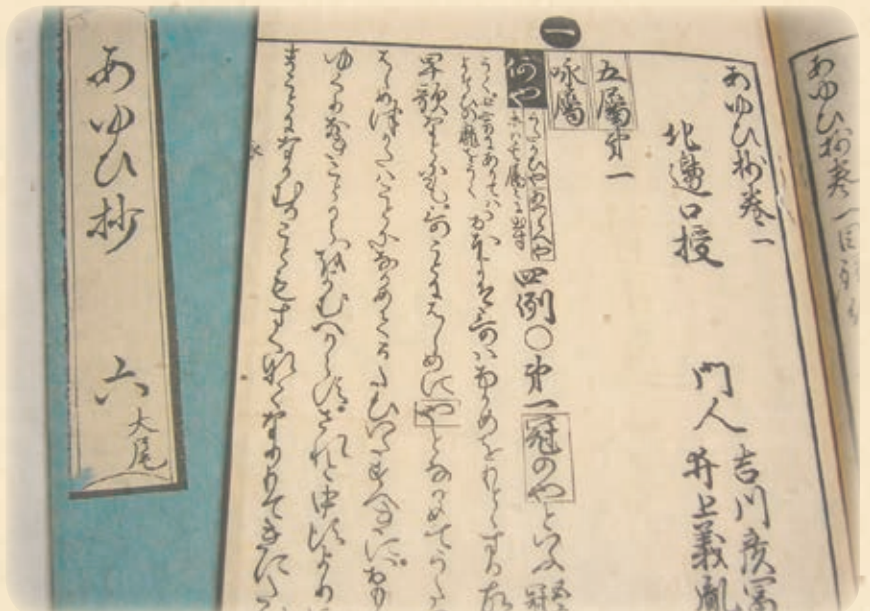
日本文学専攻

古代から近現代にいたる各時代の主要な作品・作家に触れて、全体の流れをつかむとともに、個々の作品について集中的に研究することにより、日本人の心情や生活の意義・特質を明らかにすることを目標とします。



日本語学専攻

日本語の、古代から現代にわたる音韻・音声・文字・語彙・文法・方言などについて、多様な形態で伝わる文献資料はもとより現代日本語の動態に至るまで広く対象として研究し、日本語の有する法則的事実を科学的に明らかにすることを目標とします。





伝承文学専攻

日本文化の総合的・体系的理解には、文字表現に加え、言葉や行為、感覚、さらに造形等によって受け継がれてきた伝承文化への認識が必要となります。具体的には、昔話や伝説、儀礼、芸能、衣食住など多岐にわたる文化で、これらの実態や特質について民俗学や口承文芸学、民俗芸能学等の視点から学修、究明することを目標とします。

上記3専攻とは別に、以下4つの領域科目を設定しています。3専攻のいずれかに属しつつ、目的に応じて以下の領域科目を履修することができます。

日本語教育学領域

日本語学習者の多様なニーズに応じた支援のための教授法を幅広く研究し、日本語教育実習を通じて日本語教師としての資質と能力を養うことを目標とします。専門的に日本語教育学を学ぶことで、大学院の日本語教育のコースへと展開させることが可能となります。

国語教育学領域

国語教育学の理論と実践及び教育方法学の基礎を学ぶことで、教職課程の学修を一層深めることを目標とします。また専門的に国語教育学を学ぶことで、大学院の国語教育のコースへの接続と展開が可能になります。

書道領域

楷書・行書・草書・隸書・篆書(篆刻を含む)・仮名などの実技実習と、書道史・書論などの書学書道史学の視点からの学修を通して、書の世界を実践的に学ぶとともに、体系ある学問としての書道を探究してゆくことを目標とします。

表現文化領域

散文表現、韻文表現、文字表現、身体表現などの表現方法を学修対象として、表現の可能性を追究してゆくことを目標とします。表現のありようを実践的に学ぶことによって、表現や創作、また出版・放送などに携わることのできる人材の育成を目指します。

図書館学

生涯学習社会の実現に向けて図書館の役割が重要になりました。図書館司書課程では地域の図書館で働く司書を養成します。情報社会の専門家の養成も視野にれています。また、学校図書館司書教諭も養成します。司書教諭は学校図書館を運営して、読書活動と情報活用能力の育成を支援します。

卒業認定・学位授与方針 **ディプロマ・ポリシー**

文学部日本文学科は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

- (DP-A1) 日本の文学・言語・文化について、正確に理解することができる。
- (DP-A2) 日本の文化的背景について、基礎的な知識を身につけることができる。
- (DP-A3) 日本の文学・言語・文化について、平易に伝えることができる。

B 思考力・判断力・表現力

- (DP-B1) 日本の文学・言語・文化について、研究テーマとなる学修課題を見出すことができる。
- (DP-B2) 上記の学修課題について、論理的・分析的に考察することができる。
- (DP-B3) 考察した結果について、平易かつ的確に表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- (DP-C1) 日本の文学・言語・文化についての諸問題に常に関心を持ち、主体的に取り組むことができる。
- (DP-C2) 他者の意見を理解した上で、みずからの見解をまとめることができる。
- (DP-C3) 日本の文学・言語・文化についての知識を、他者と共有することができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位を授与します。



教育課程の編成・実施方針

カリキュラム・ポリシー

文学部日本文学科は、学位授与方針が示す教育目標を達成するため、下図に示すような教育課程を編成します。

科目群		卒業認定・学位授与方針 (DP)									各科目群の教育目標
		知識・技能			思考力・判断力・表現力			主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度			
		A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	
学科基幹科目	学科基礎科目	◎	○		○						専門的学修のための知識・技能を修得し、広い視野と教養を身につける。
	専攻基礎科目		◎	○		○					
	専門基礎科目	◎	○			○					
	専攻演習科目				◎		○	○			
	専攻外演習科目					○	◎		○		
展開科目	選 択 I 類				○	◎				○	学生が希望する専攻分野についての理解力や知見、実践力を養う。
	選 択 II 類				◎		○			○	
	選 択 III 類				○	◎		○			
	選 択 IV 類						◎		○	○	
卒業論文					○		◎		○		これまでに修得した専門的な知識や技能を活かし、学修の集大成としてまとめる。

入学者受入れ方針

アドミッション・ポリシー

文学部日本文学科では、以下のような学生を受け入れます。

- 日本の文学・言語・文化を研究したいという意欲を持ち、古典語を含む日本語と日本文化の基礎的な学力を備えている者。
- 自ら問題を発見し、資料を収集・整理・分析して自分の考えをまとめ、文章で表現できる能力と姿勢を身につける意欲を持つ者。
- 日本の文学・言語・文化の研究を通して新たな文化創造に参画し、社会に積極的に働きかけ貢献できる者。

上記の方針に基づき、以下の観点で入学希望者を審査します。

- (AP1) 国語（古文・漢文を含む）を中心に、日本文学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。
- (AP2) 自らの知識・技能に基づいて問題を発見し、物事を論理的・客観的に考え整理・分析する力と、それを自らの言葉で表現する能力があるか。
- (AP3) 日本の文学・言語・文化の学修・研究に強い意欲を持ち、将来において社会に発信する主体となるために、積極的に学ぶ姿勢があるか。

また、入学までに「古典A」「古典B」「現代文A」「現代文B」およびそれに相当する教科を履修していることが望まれます。

日本文学専攻



日本文学専攻では、長い伝統的な学問体系を尊重し、日本文学科が教育目標として掲げる「古典の読める國學院」の実現を目指して、古典文学研究に重きを置いています。一方、近現代文学の研究についても力を入れ、古典と現代文学についての総合的な学修を可能にしています。

具体的には、上代・中古・中世・近世・近現代と、5つの時代の文学作品を取り上げて講義や演習を行っています。たとえば、『古事記』『万葉集』『源氏物語』『蜻蛉日記』『平家物語』『宇治拾遺物語』『徒然草』『日本永代蔵』『奥の細道』などの古典作品、近現代文学では夏目漱石、川端康成、太宰治、横光利一などの小説、中原中也の詩などです。これ以外にも多くの作品、作家が取り上げられており、その種類の豊富さは本専攻ならではのと言えます。内容的には、たんに作品や作者の気持ちを読み取るだけではなく、作品の成立に関する時代背景や同時代的な比較などを行います。また原典に立ち返り、古典籍や作家の自筆原稿などにも触れますので、高校までに培った鑑賞力をさらに伸ばしながら、研究的姿勢を養っていきます。

1年次に日本文学科としての基礎を修得した上で、専攻に別れる2年次では「日本文学史」などの講義で全体的な流れをとらえるとともに、「日本文学講読」などの講義を通じて歴史的背景や作品の構造分析など、作品読解の研究的な基礎を修得します。また、学生ひとりひとりが希望する分野の「日本文学演習Ⅰ」で自らの発表、討論を通じて思索を深めていきます。3年次以降は発展的に「日本文学演習Ⅱ・Ⅲ」といった演習を中心にしながら、「日本時代文学史」や上代・中古・中世・近世各々の「文学研究」などの講義を通じて各自の問題意識を養い、論点を明確にしなが卒業論文の完成を目指します。

日本文学専攻の特徴の一つとして、国語科教師を志望する学生が多いことが挙げられます。これまで紹介してきましたカリキュラムの修得を通じて、古典文学への深い造詣や近現代文学の読解方法など、専門的な知識を身につけ、教壇に立っています。その点で日本文学科は「教職の國學院」としてチャレンジプログラム「古典教育研究」を、中国文学科とともに運営しています。将来的に

所属教員一覧

荒木 優也
和歌文学

石川 則夫
近現代文学

井上 明芳
近現代文学

岩崎 雅彦
中世・近世の芸能

上野 誠
上代文学・万葉文化論

竹内 正彦
中古文学

谷口 雅博
上代文学

土佐 秀里
上代文学

中村 正明
近世・明治初期文学

野中 哲照
中世文学

山田 利博
中古(平安)文学



横光利一「旅愁」直筆原稿



写本の調査

は教科書の指導書執筆や編纂ができる専門性を修得するプログラムです。教員採用の際、このプログラムの修了証は大きなアピール・ポイントとなるでしょう。

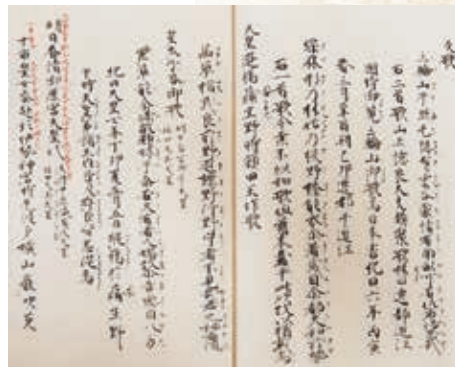
日本文学について深く知ることは、しかも専門的な研究をしながら知っていくことは、グローバル化がますます進む現在の日本にとって、海外から求められる日本文化についての知識や知性に応えていけることとなります。日本文学を通じて日本文化を発信することは国際的な教養に必要でしょう。日文学専攻は、日本語学専攻、伝承文学専攻とともに総合的な日本文化の発信地となっているのです。



日本文学演習（黄表紙）では、受講者が一人ずつ『金々先生栄花夢』ほかの諸作品にあたり、担当者が一人ずつ発表するという形式をとります。この個人発表という形式は、グループ発表と異なり、一人で研究を進めるので、打ち合わせの手間もかからない分、作業を気楽に進められます。しかしその一方で、全ての責任が自分にかかってくるので、意欲を持って臨まなければ、発表としての体裁を整えることすら難しいでしょう。

しかし、苦勞に見合った分の達成感と成果が、発表を終えた後に残るのも確かです。黄表紙に限らず、あらゆるテキストは奥が深く、情熱を注げば注ぐほどさまざまな姿を見せてくれるものです。おそらくはそれが、一生ものの値打ちを持つことでしょう。

まずは、好きな文学作品を見つけてください。有名作家だとか文豪だとかいう評価に惑わされないでください。古事記、万葉集、源氏、平家、西鶴、漱石でも、読み物として大変面白いものなのです。まずは、最初の数ページを読んでみて続いて読書できそうだったらその後へ進めるとか、徒然草の面白そうな章だけいくつか選ぶとか、また、古典作品なら音読してみるとか、いろいろな読み方を試みていいのです。そうしているうちに文学作品の表現の持っている特徴に気がつくはずですよ。こうなればもう中級レベルの読解に進んでいるのです。要は文学を楽しんでください。



万葉集（西本願寺本・複製）



源氏物語（河内本・複製）

日本語学専攻



日本語学は、日本語を研究する学問です。研究の対象となる日本語とは、どのような日本語だと思いますか？ ふだん話している日本語を思い浮かべる人もいれば、新聞や小説に書かれている日本語を思い浮かべる人もいます。あるいは、古典の文学作品の中で使われている昔の日本語を思い浮かべる人もいます。それらはすべて日本語学の研究対象となります。日本語学は、古代から現代までのあらゆる日本語を研究対象として、音声・語彙・文法・意味・文字・文章・方言など、さまざまな観点から分析し、日本語の実態・歴史・規則を明らかにしていきます。

言葉って不思議なものです。例えば「か」に濁点が付きますが、「ま」には付きません。さらにハ行の仮名だけは濁点のほかに半濁点も付きます（「ぱ」のように）。なぜハ行だけにそのようなことが起きるのでしょうか。また、「午前中」といえますが、「午後中」といえないのはなぜでしょう。親の兄弟は「おじ／おば」と男女で区別しますが、その子を表す語「いっこ」は男女の区別をもちません。「しないでいいよ／しなくていいよ」の「いいよ」を「ほしい」に変えると、「しないでほしい」と言えますが、「しなくてほしい」とは言えなくなります。なぜでしょう。「足す」と「加える」はどう違うのでしょうか。音韻・語彙・文法・意味に関する問題の一例をあげましたが、これらの問いには日本語学の知見が答えを与えてくれます。ふだん空気のように使っている日本語についてのふとした疑問が日本語学の課題になるのです。

本学の日本語学専攻では、多彩な内容の講義・演習科目がありますので、日本語についての幅広い知識と技能を身につけることができます。1年次に「日本語学概説Ⅰ・Ⅱ」で日本語学の各分野を幅広く学修し、2年次では「日本語史Ⅰ・Ⅱ」で日本語の歴史、「日本語学講読Ⅰ・Ⅱ」で源氏物語の日本語を詳しく学修し、「日本語学演習Ⅰ」で実践的な研究を行います。3年次以降は専門的な研究を行う「日本語学演習Ⅱ・Ⅲ」「言語学演習」を中心に、卒業論文作成に向けて学問を深めていきます。これらの学修を通して、国語教師や研究者になる場合にはもちろん、企業に勤めて日本語で情報を発信する場合にも有益な知識と技能が得られることと思います。

所属教員一覧

小田 勝

古典文法(共時)

菊地 康人

日本語教育

三井はるみ

方言学・音声学

諸星美智直

日本語教育・近代語

吉田 永弘

古典文法(通時)



『詞の玉緒』三転証歌



『あゆひ抄』装図

また、副専攻の「日本語教育（日本語教員養成課程）」では、日本語を母語としない人に日本語を教えるための知識と技能を身につける、日本語教育に関する講義・演習もあります。2年次までに日本語学の基礎知識を学修した後、3年次以降に「日本語教育研究Ⅰ・Ⅱ」「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」で日本語の母語話者が非母語話者に教える際に必要な知識を学修し、「日本語教育学演習Ⅰ・Ⅱ」で実践的な技能を身につけます。



日本語学講読ⅠⅡでは、中古和文の代表的作品である『源氏物語』（令和4年度はⅠは桐壺巻、Ⅱは夕顔巻）を日本語学的に読解します。すなわち、機能語（助詞・助動詞）の役割、各語句の係り受け、構文、敬語等について明示的な説明を与えた上で、その結果としての完全な直訳を付けることを目指します。この作業を通じて、古文の読解力を培い、あわせて、実証的な古典語研究の実際に触れます。

日本語学演習Ⅰは、令和4年度は『万葉集』をテキストとして、語法の演習を行っていきます。

「かぼちゃ」の分布（語形）



伝承文学専攻



概要

「伝承文学」とはあまり聞きなれない言葉だと思います。伝承されてきた文化や説話を手掛かりに、日本の文化や文学を理解する学問の方法です。伝承文学の考え方は、國學院大學文学部教授で、民俗学者・国文学者・歌人だった折口信夫おりくちしのぶがとった「生活の古典」という視点、それは「文学の民俗学的研究」ということができる学問伝統を受け継いでいます。

日本の文化や文学を総合的に理解するためには、文字で書かれた資料を読み解くことと、ことばや行為、技術、感覚、造形などの非文字の領域で受け継がれてきた文化の領域を理解することが必要です。具体的に挙げると、口承として語られてきた昔話や伝説、各地に歌い継がれてきた民間歌謡（民謡）、一年の折り目や人生の節目に行われる年中行事や人生儀礼、村々の誇りと楽しみの対象だった祭礼（お祭り）や民俗芸能、生活を成り立たせている働き方の技術（生業）、人の移動とつき合い（交通・交易）、人びとの信じてきた小さな神仏やおまじない（民間信仰、俗信）、そのほか衣食住のあれこれなど、多岐にわたります。

こうした生活文化の現状をとらえ、その変遷を理解する学問を民俗学といいます。伝承文学は、この民俗学の方法と資料を用いて、日本文化と日本文学を解き明かそうとする学問です。そのためには、実際に現場を歩き、人と会い、聞き書きをすることが大事です。この調査を「フィールドワーク」といいます。伝承文学専攻の学びでは、伝説や祭礼の行われている現場を訪ねて実際にその土地や場所の空気を知り、そうした伝承を持ち伝えている人たちに直接会ってお話を聞かせてもらい、伝承の歴史や細部、意味について教えていただくことが大事となります。

そうして得た各地の資料を、文字に記された過去の資料や、外国も含む他の土地の資料と比較することで、文化の中に位置づけていくことができます。伝承文学の研究領域は、日本文化だけではなくありません。身近な民俗事象を手掛かりにして、日本文化の、アジア文化の、ひいては人類文化の普遍性まで考えていくことができるのです。

所属教員一覧

飯倉 義之

現代民俗論・口承文芸

伊藤 龍平

説話(文字伝承・口頭伝承)

大石 泰夫

民俗学と上代文学

小川 直之

民俗学

服部比呂美

民俗学



花田植(広島県北広島町)



荒神森と藁蛇(島根県松江市)

民俗学の対象は過去の文化には限りません。例えば近畿地方の一部の風習でしかなかった「節分の巻寿司」が、コンビニエンスストア・チェーンが「恵方巻」と名付けて売り出すことによって都市的な、全国的な行事に変わったことは、「年中行事の変化」として考えることができます。またネットやSNSで噂される「都市伝説」は、まさしく現代の民話だといえます。現代の都市にも民俗学の対象は見つけることができます。身の回りの当たり前の生活の中から学問の対象を発見できるのも、伝承文学のおもしろさの一つです。

國學院大學の伝承文学専攻は、日本の民俗学研究の拠点の一つです。民俗学や口承文芸を深く専門的に学びたいという希望に応えることのできる専攻です。伝承文学という方法や民俗学という学問に興味を持って入学をめざしてください。



双体道祖神(高崎市熊久保)

演習Ⅰでは、前期に昔話、後期は日本の伝説をテーマに発表をしました。それぞれ2回、自分の興味あるテーマを見つけ、該当する文献資料やフィールド調査をして、資料集めやレジュメ(発表資料)を作成し、30分程度の発表をします。調べて発表するのはしんどいですが、やりがいもあります。いろいろな発表を聞くことができるのも有意義です。



花祭の榊鬼(愛知県東栄町)



折口信夫が描いた河童図

書道領域関連講座



書道領域は、楷書・行書・草書・隸書・篆書（篆刻を含む）・仮名などの実技実習と、書道史・書論などの書学書道史学の視点からの学修を通して、書の世界を実践的に学ぶとともに、体系ある学問としての書道を探究してゆくことを目的とするものです。

専任教員・兼任教員あわせて12名（令和4年度）という国内有数の書道を専門とする教員スタッフ数を擁して、次のような多種多様な書道関連科目を開設しています。

- 【実技実習科目】**
- 書道Ⅰ・Ⅱ……………楷書・行書・仮名の基礎（書写を含む）
 - 書道実習ⅠA・ⅠB…楷書・隸書
 - 書道実習ⅡA・ⅡB…行書・篆書（篆刻を含む）
 - 書道実習ⅢA・ⅢB…草書・仮名
 - 書道実習ⅣA・ⅣB…漢字仮名交じりの書など
 - 隸書法
 - 篆書法篆刻学

- 【講義科目】**
- 書道概論
 - 日本書道史Ⅰ・Ⅱ
 - 中国書道史Ⅰ・Ⅱ
 - 書論研究 *書論とは、芸術論・技法論など書に関する様々な理論のことです
 - 古筆学 *古筆とは「古人の筆跡」。特に平安～鎌倉時代の仮名の名品のことを言います

- 【演習科目】** • 書道演習Ⅰ・Ⅱ…発展的な作品制作など

*表現文化領域の文字表現文化論Ⅰ・Ⅱも書道を主とする内容です（近現代の書など）

大別すると、実技実習科目と講義科目からなりますが、両者は密接に関わるものです。さらに、書道に関連するテーマで、卒業論文に取り組むことも可能です。

これらの書道関連科目は、日本文学・日本語学・伝承文学のどの専攻に所属していても履修することができます。

今日、書作品とされるものは、書かれている内容に着目すればその多くが『古今和歌集』などの古典文学作品であり、書かれている言葉そのものに着目すれば日本語史の資料と見ることもできます。また筆供養など、書道に関わる民俗儀礼も少なくありません。

このように、書道は3専攻のいずれとも深い関わりを持っています。そもそも、「琴棋書画」（棋は囲碁のこと）、「詩書画三絶」の語に示されるように、近代以前の東アジア世界において、書は知識人にとって欠くべからざる教養の一つでした。書道は、日本文学・文化を理解する上で重要な位置を占めるものなのです。

また、所定の科目の単位を修得することで、高等学校の書道の免許を取得することができます。日本文学科では、これまで多くの書道教員を輩出してきました。国語教員をめざす皆さんにとっても、書道の免許をあわせて持っていることは、大きなアピールポイントとなることでしょう。積極的な受講を期待します。

*書道関連講座は、免許取得希望の有無を問わず、履修可能です。

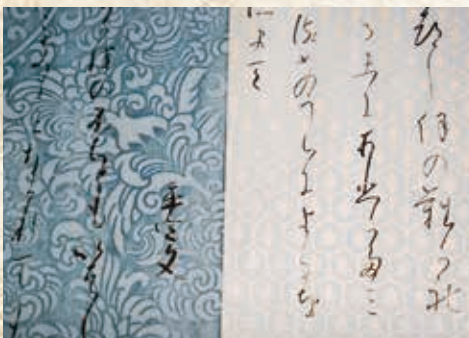
所属教員一覧

野村ひかり

書道・漢字

橋本 貴朗

書道・仮名



書の世界を実践的に学ぶとともに、体系ある学問としての書道を探究していきます。

図書館学関連講座



概要

図書館の種類には国立図書館、公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館があります。

日本の国立図書館は国立国会図書館です。本館が東京永田町にあり、京都府精華町の関西館、国際子ども図書館、最高裁判所図書館、文部科学省や厚生労働省、気象庁などの各省庁にある図書館も国立国会図書館の組織に含まれます。国立国会図書館の最も重要な仕事は国会議員と国民に対する資料提供・情報サービスです。

街で見かける図書館のほとんどが公共図書館です。公共図書館には公立図書館と私立図書館があります。日本には3,000館を超える公立図書館があり、都道府県立図書館と市区町村立図書館に分かれます。國學院大學渋谷キャンパスの近くには、東京都立中央図書館と渋谷区立渋谷図書館があります。私立図書館は民間の法人が設置する図書館で、数が少ないのですが、東京子ども図書館（東京都中野区）などがあります。

小学校から高等学校までの学校に設置されるのが学校図書館です。大学・短期大学・高等専門学校に設置されるのが大学図書館です。専門図書館は専門資料を扱う図書館で、企業・研究機関・美術館・博物館などが設置する図書館があります。青山にカナダ大使館内のE.H.ノーマン図書館、東京ドイツ文化会館の資料室、恵比寿に日仏会館図書館などがあります。2016年、南青山に「旅の図書館」が開館しました。

昔の図書館は受験勉強のために利用する人や教養を高めるために読書をする人が行くところでした。現在は気軽に小説を借りるために、趣味や生活に役立つ本を探すために図書館を訪れる人が増えています。ビジネス街の図書館は夜間も開館しているので、会社員で仕事に必要な資料を使って調査するために訪れる人がいます。利用者が「文化教養型」から「生活ビジネス型」へ変化しています。生活に不自由を感じる人、社会の中で弱い立場の人、外国人のように異なる文化習慣を持つ人にも幅広くサービスを広げています。

日本の図書館法（昭和25年制定）で、「図書館司書」は公共図書館の専門職員です。国立国会図書館、大学図書館、専門図書館などは「図書館職員」が働いています。

本学では昭和27年から図書館司書課程を開設しています。図書館資料と学術情報の選択収集・組織化・保存・利用に関する専門知識と技術の習得を中心に、情報社会のスペシャリストとしての資質の養成も視野にいれています。

学校図書館法（昭和28年制定）で、「学校図書館司書教諭」が教員として学級や教科を担当しながら、学校図書館の運営に関わります。平成26年の改正で「学校司書」という職員の配置が定められましたが、その養成、職務については今後、検討されます。

本学は昭和29年に学校図書館司書教諭講習を立川市教育委員会と共催で開始しました。日本で最も早くから司書教諭の養成に取り組んだ伝統があります。日本と世界の学校図書館の状況を視野に入れて、21世紀を生きる子どもたちが文字文化に親しみ、情報リテラシー（情報活用能力）を習得できるように指導する司書教諭の実践的能力を養成します。

本学は、日本で最も早くから司書教諭の養成に取り組んだ伝統があります。

所属教員一覧

新藤 透
図書館情報学

須永 和之
図書館情報学



国語教育学領域関連講座

概要

教育を専門とした学部学科で学ぶ以外にも教員になる方法があります。例えば日本文学に関する専門教育に加え、教職に関する授業(教職課程)を履修すれば、国語科の教員免許を取得することが可能です。つまり、國學院大學の日本文学科で学び、同時に教職課程を履修するのも、中学校・高等学校の国語科教員への道の一つなのです。

文学部卒業のための単位に加えて、それとは別に教職課程の単位を取ることになるので、その道のは少々険しいと言わざるをえません。日本文学科の授業では文学の専門家、教職課程では教育の専門家を目指し、自分を作ることになります。二つの異なるカリキュラムを同時にこなすには、教職への強い意欲と日本語や伝承文化も含めた広い意味での日本文学への探究心、加えて自己をマネジメントする力が必要になるでしょう。

しかし、文学と教育というように、専門が二つあるというのは、教師として大変な強みです。國學院大學を出た国語科の教員が高く評価されている理由の一つです。三年次以降は、日本文学科の国語教育学領域に設けられた「国語教育学概説Ⅰ・Ⅱ」「国語教育実践研究Ⅰ・Ⅱ」を履修することで、文学と教育学をつなぐことを深く学ぶことができます。文学の魅力を知り、それを体現できるだけでなく、国語教育学や教育方法学の知見に支えられた授業ができるようになります。本学の日本文学科で学べば、文学者にして教育の専門家、そんな国語科の教員を目指すことが可能なのです。

では、四年間どのように学ぶことになるのでしょうか。教職課程に絞ってみます。

一年目。まずは入門編。例えば、「教職論」の授業では、教師という仕事について考えます。これは同時に自身の教育体験の見つめ直しでもあります。授業を受ける側だったみなさんが、四年後、授業をする側になる、そのための第一歩です。また特別支援学校や福祉施設に出向いて学ぶ「介護等体験」のためのガイダンスもあります。

二年目は、「国語科教育法」の授業が始まり、国語の先生に少し近づいた気分。学科での学びをどう授業に活かすか考えることになるでしょう。一方で、介護等体験を通じて、一年目に学んだ教育の本質について自らの言葉で改めて捉えなおすことにもなります。あいまいだった教師の実像が見えてきて、一生の仕事とすべきか悩む人も出てくるはず。その時はぜひ、大いに思い悩んでください。

三年目の後期に開講される「教育実習ⅠA」という講座では、教育実習へ向けた事前指導を行います。その際、二年半の学びがどれだけ身に付いているか冷静な自己評価を必要とします。また、三年次には進路や生活の指導に関する講座も始まり、授業のデザイン(学習指導案)を作ったり、実際に授業を試みる機会が増えたりして、教壇に立つ自分が思い描けるようになってきます。

そして四年目に、ほとんどの人が前期中に教育実習を行います。実習先では、本当に「先生」と呼ばれます。その呼びかけにしっかりと応えられてはじめて、教職への道が開かれます。後期開講の「教職実践演習」では、実習経験を検討し、教師としての自身の今後の課題を探ります。教師は絶えずあるべき教育の姿を求め、学び続けなければなりません。その意味では、学び方を学ぶ、そんな四年間になるでしょう。

文学と教育、専門が二つあるというのは、教師としては大変な強みです。

所属教員一覧

齋藤 智哉
教育方法学

高橋 大助
文学教育

高山 実佐
国語教育学

教育関連の副専攻プログラム

【古典教育研究 —古典教育のスペシャリストを目指して—】

本学が全学規模のスローガンとして掲げる「教職の國學院」と、日本文学科が掲げる「古典の読める國學院」の方針に基づき、本学の学統の強靱さを背景に、古典（古文・漢文）教育のプロフェッショナルを養成するための副専攻プログラムがあります。一般的な国語科教員免許の取得にとどまらず、「古典教育の國學院」という伝統・学統を継承・発展させる能力を修得し、古典研究の専門性を活かした教育のできる教員の養成を目的としています。プログラム修了者には卒業時に、「古典教育研究」修了証が授与されます。國學院大學でより多くの古典を学び、十分に教える能力を身に付けた教員であることの証しとなるものです。

【日本語教育（日本語教員養成課程）】

日本語教育に関する知識を、言語、教育、社会・文化・地域に関わる領域から体系的に学ぶことにより、多様な日本語教育の現場に対応した教師としての資質を磨きます。これらの知識は、異文化共生時代を迎えた日本、及び国際交流の進む海外における活動の選択肢を拡げることに役立つでしょう。



〈日本語教育（日本語教員養成課程）の内容〉

1年次	「日本語学概説Ⅰ・Ⅱ」等を履修し、日本語の特質を理解する。 「日本史概論Ⅰ・Ⅱ」「日本政治史A・B」等を履修し、社会・文化・地域に関わる領域について学修する。
2年次	「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」「日本語史Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育学演習Ⅰ・Ⅱ」等を履修し、日本語の教授法の基礎を修得する。
3・4年次	「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育研究Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育学演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ」等を履修し、非母語話者である日本語学習者に対する教授法を修得する。

上記の科目等26単位以上の修得により、「日本語教育（日本語教員養成課程）」の修了証が発行されます。この修了証は法務省告示校を含む日本語教育機関の教員募集の応募の際に使用することができます。



専門教育科目構成

○数字：単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次
学科基礎科目	学科基礎科目 日本文学概説Ⅰ②・Ⅱ② 日本語学概説Ⅰ②・Ⅱ② 伝承文学概説Ⅰ②・Ⅱ② 漢文学概説②			
	専攻基礎科目	日本文学講読Ⅰ②・Ⅱ② 日本語学講読Ⅰ②・Ⅱ② 伝承文学講読Ⅰ②・Ⅱ② 漢文学講読Ⅰ②・Ⅱ②		
	専門基礎科目	基礎日本古典語Ⅰ②・Ⅱ② 書道Ⅰ②・Ⅱ② 書道概論② 影印講読② 基礎漢文学②		
	専攻演習科目	日本文学演習ⅠA②・ⅠB② 日本語学演習ⅠA②・ⅠB② 伝承文学演習ⅠA②・ⅠB②	日本文学演習ⅡA②・ⅡB②・ⅢA②・ⅢB② 日本語学演習ⅡA②・ⅡB②・ⅢA②・ⅢB② 伝承文学演習ⅡA②・ⅡB②・ⅢA②・ⅢB②・ⅣA②・ⅣB②	
	専攻外演習科目		日本語教育学演習ⅠA②・ⅠB②・ⅡA②・ⅡB② 言語学演習Ⅰ②・Ⅱ② 国語教育学演習Ⅰ②・Ⅱ② 表現文化演習ⅠA②・ⅠB③・ⅡA②・ⅡB②・ⅢA②・ⅢB②	
	卒業論文		卒業論文⑧	
展開科目	日本文学 科目群 選択Ⅰ類	日本文学史Ⅰ②・Ⅱ② 日本上代文学研究Ⅰ②・Ⅱ② 日本中古文学研究Ⅰ②・Ⅱ② 日本近現代文学研究Ⅰ②・Ⅱ②	日本古典芸能文化論Ⅰ②・Ⅱ② 東アジア芸能文化論Ⅰ②・Ⅱ② 日本文学各論Ⅰ②・Ⅱ② 東アジア比較文学Ⅰ②・Ⅱ② 文献情報処理Ⅰ②・Ⅱ②	日本時代文学史Ⅰ②・Ⅱ② 日本中世文学研究Ⅰ②・Ⅱ② 日本近世文学研究Ⅰ②・Ⅱ② 日本近現代文学研究Ⅲ②・Ⅳ② 書誌学Ⅰ②・Ⅱ② 日本古典文学特殊研究Ⅰ②・Ⅱ② 日本近現代文学特殊研究Ⅰ②・Ⅱ②
	日本語学 科目群 選択Ⅱ類	日本語史Ⅰ②・Ⅱ② 言語学概論Ⅰ②・Ⅱ② 現代日本語文法Ⅰ②・Ⅱ②	日本語学史Ⅰ②・Ⅱ② 日本語音声学Ⅰ②・Ⅱ② 古代日本語文法Ⅰ②・Ⅱ② 現代日本語研究Ⅰ②・Ⅱ② 日本語学各論Ⅰ②・Ⅱ② 言語学特殊講義Ⅰ②・Ⅱ② 日本語教授法Ⅰ②・Ⅱ② 日本語教育研究Ⅰ②・Ⅱ②	
	伝承文学 科目群 選択Ⅲ類	民俗学史Ⅰ②・Ⅱ② 伝承文学研究ⅠA②・ⅠB② 伝承文学研究ⅡA②・ⅡB②	伝承文学史Ⅰ②・Ⅱ② 日本民俗学Ⅰ②・Ⅱ② 口承文芸研究Ⅰ②・Ⅱ② 儀礼文化論Ⅰ②・Ⅱ② 比較民俗研究Ⅰ②・Ⅱ②	伝承文学思想② 民俗研究思想② 現代文化論② 映像文化論② 民俗文化財論Ⅰ②・Ⅱ② 民俗芸能論Ⅰ②・Ⅱ② 比較口承文芸論Ⅰ②・Ⅱ②
	日本語 教育学 領域 選択Ⅳ類	日本語教授法Ⅰ②・Ⅱ②	日本語教育研究Ⅰ②・Ⅱ② 日本語教育実習Ⅰ①・Ⅱ②	
	国語 教育学 領域 選択Ⅴ類		国語教育学概論Ⅰ②・Ⅱ② 国語教育実践研究Ⅰ②・Ⅱ② 古典教育研究Ⅰ②・Ⅱ②	
	書道領域 選択Ⅵ類	中国書道史Ⅰ②・Ⅱ② 書道実習ⅠA①・ⅠB① 書道実習ⅡA①・ⅡB①	日本書道史Ⅰ②・Ⅱ②	書道実習ⅢA①・ⅢB①

展開科目	書道領域 選択Ⅵ類		書道実習ⅣA①・ⅣB① 書論研究② 古筆学② 篆書法篆刻学② 隷書法②
	表現文化 領域 選択Ⅶ類	表現文化論Ⅰ②・Ⅱ②	出版文化論Ⅰ②・Ⅱ② 放送文化論Ⅰ②・Ⅱ② 身体表現文化論Ⅰ②・Ⅱ② 文字表現文化論Ⅰ②・Ⅱ② 書誌学Ⅰ②・Ⅱ②
	関連科目	中国古典読法基礎② 中国学入門②	中国文学通史② 中国文学基礎Ⅰ②・Ⅱ②

講義内容詳細「シラバス」と要卒単位数などカリキュラム詳細「履修要綱」を大学ホームページに掲載しております。大学ホームページにてご確認ください。

卒業後の進路

日本文学科の卒業生は、伝統的に公立・私立の中学・高校の国語科・書道科の教員として多数採用されていますが、地方自治体の職員などの公務員にも採用されています。企業ではサービス・広告・印刷・運輸・卸・小売や、メガバンクを含む金融機関などの幅広い業種に採用されています。1年次からキャリアサポート課の各種の就職支援企画に積極的に参加してキャリアデザインをしっかりと考えることによって自分にふさわしい企業に就職しています。

日本文学科 129期生(令和3年3月卒) 主な就職先一覧(抜粋)		
業 界	就職先企業・団体名	教 職
公 務 員	館林市役所 埼玉県庁 小平市役所 武蔵村山市役所 江戸川区役所 新宿区役所 横浜市役所 神奈川県庁 横浜地方検察庁 関東信越国税局	厚岸町立中学校 函館市立中学校 別海町立中学校 南部町立小学校
芸 能 ・ サ ー ビ ス	株式会社アミューズ ベンチャーサポート税理士法人	山形県立高等学校 島崎村立中学校
出 版	株式会社金剛出版	宇都宮市立中学校 埼玉県立高等学校
建 設	清水建設株式会社	さいたま市立中学校
運 輸	北海道旅客鉄道株式会社 (JR北海道)	ふじみ野市立中学校
通 信	KDDI株式会社 ソフトバンク株式会社	千葉県立高等学校
卸 ・ 小 売	コニカミノルタジャパン株式会社 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 株式会社トーハン 日本出版販売株式会社 株式会社小田急百貨店 株式会社ファーストリテイリング	東京都立特別支援学校 八王子市立中学校 神奈川県立高等学校 厚木市立小学校 小田原市立小学校 蒲郡市立中学校
金 融	株式会社常陽銀行 東京東信用金庫 明治安田生命保険相互会社	他、私立中学、高等学校
教 育	国立大学法人筑波大学 学校法人東放学園	
製 造	グンゼ株式会社 日経印刷株式会社 日本製薬株式会社	※非常勤講師を含む
非 営 利 ・ 団 体	全国農業協同組合連合会 独立行政法人国立印刷局 独立行政法人地域医療機能推進機構	



KOKUGAKUIN
UNIVERSITY
140th
1882-2022

國學院大學文学部

日本文学科ガイドブック

令和4年4月1日 第1刷発行

編集 日本文学科教務小委員会

発行 國學院大學文学部日本文学科

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

印刷・製本 共立印刷株式会社
落丁・乱丁はお取り替えいたします。

國學院大學文学部日本文学科